



HOUSE PLUS

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

平成29年5月9日

受付日：平成28年10月20日

受付番号：HP16-KT178

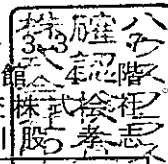
## 接合部性能試験成績証

東京都港区芝5-1

徳栄ビル本館

ハウスプラス確認検査株式会社

代表取締役社長 川



1. 接合金物名称	FHD-50
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9 株式会社 ダイドーハント 〒542-0086 大阪府大阪市中央区西心斎橋1-5-5
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(引張)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部(アンカー型)の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「FHD-50」1個 材 質: SPHC(JIS G 3131<sup>*1</sup>) 寸 法: 105mm×105mm×235mm(外形) 板厚t=6mm ドリフトピン用孔 5-φ13mm ボルト用孔 1-φ36mm 表面処理: Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>)</p> <p>2) 接合具</p> <p>「FPN-105」5本 材 質: SWRM8相当材として以下に掲げる鋼線<sup>*3</sup> SWRM8(JIS G 3505<sup>*4</sup>) SWRM10(JIS G 3505<sup>*4</sup>) Q195(GB/T701-2008<sup>*5</sup>) 寸 法: φ12mm L=103mm 先端7mm絞りφ9mm 表面処理: Ep-Fe/Zn 8CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>) 「丸座金t12.0×φ86」1個 材 質: SS400(JIS G 3101<sup>*6</sup>) 寸 法: φ86mm 長孔加工孔 1-φ16mm 板厚t=12mm 表面処理: Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>) 「丸座金t6.0×φ50」1個 材 質: SPHC(JIS G 3131<sup>*1</sup>) 寸 法: φ50mm 加工孔 1-φ16mm 板厚t=6mm 表面処理: Ep-Fe/Zn8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>)</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱材: 105mm×105mm×600mm スプルー ス 同一等級構成構造用集成材 E95-F315 含水率: 11.5~13.0% 全乾密度: 0.44~0.45g/cm<sup>3</sup></p> <p>*1 JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯 *2 JIS H 8610 電気亜鉛めっき *3 試験ではSWRM8を使用した *4 JIS G 3505 軟鋼線材 *5 中国国家标准規格(GB規格) *6 JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材</p>
6. 試験条件等	試験体は接合部を実状に合わせた仕様としている。 試験体の固定は試験体の中心軸から10mm偏芯した位置とし、M16全ねじボルト、ナット2個(ダブルナット)及び「丸座金t12.0×φ86」、「丸座金t6.0×φ50」を用いて、基礎を想定した鉄骨治具に強固に固定した。この時M16全ねじボルトにかかる軸力が20kN程度となるように締付トルクを管理した。また、柱材横倒れ防止のためのサポート治具を設けた。
7. 試験結果	短期基準接合耐力 <b>59.6</b> kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター: 神奈川県横浜市鶴見区元宮1-12-24
9. 試験実施日	平成28年11月2日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 千葉 博 宇山 善博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。